

令和元（2019）年度行政改革推進委員会外部評価会議 議事録  
（路線バス等確保事業分）

柏崎市総合企画部人事課

- 1 開催日時 令和元（2019）年9月25日（水） 午後1時25分から4時00分まで
- 2 場 所 柏崎市役所第二分館2階第6会議室
- 3 出席者 ○行政改革推進委員会委員（五十音順）  
石坂泰男委員長、川瀬朝子委員、高橋達男委員、中村真樹子委員、  
中山博迪委員、西巻淳一委員  
○外部評価対象事業担当課  
井比課長、重野課長代理、田邊主査  
○事務局  
箕輪総合企画部長、宮崎人事課長、宮川課長代理、村山主査

#### 4 概 要

8月19日に開催した第2回行政改革推進委員会において選定した事業について、外部評価を行った。

#### 5 委員会の要旨

- (1) 開会  
(2) 議事

- 1 外部評価の手順説明  
2 外部評価の実施

《担当課から外部評価シート及び補足資料に基づき説明後、質疑応答》

- A委員 コミュニティバスとデマンドバスの定義を確認したい。
- 企画政策課 コミュニティバスは市が運営するバスであり、市内では西山地区で運行している。デマンドバスは、事前予約に対応して運行する形式であり、市内では鶴川地区と米山地区で運行している。
- A委員 事業者への補助総額について、自主財源と補助金の割合を確認したい。
- 企画政策課 市から事業者への補助総額約1億1,600万円のうち、県からの補助金が1,300万円であるため、市の財源からは約1億300万円を支出している。
- B委員 郊外における路線バス需要への対策はどう考えているか。
- 企画政策課 以前は郊外も路線バスの便数が一定数確保できていたが、乗車人数が減少し、それに伴って便数も減少してきた経緯がある。  
担当課としては、便数を減らさないように、市内全路線における高齢者割引制度など、運行しているバスに乗っていただくための取組を実施している。
- B委員 市内中心部についてはある程度需要に応えられていると思うが、その外側については、使いやすいとは言い難い。市街地循環バスの経路拡大については要望があるのか。
- 企画政策課 市街地循環バスの経路拡大の要望は寄せられているが、1回当たりの運行時間が延び、利便性が低下するため、要望に応えられていないのが現状である。

- バス路線の廃止や自動運転、デマンドバスなど、バスも新たな考え方が出てきており、バスの在り方が変わってきている。
- A委員 デマンドバスを増やすことが、これからのニーズに合致していると考えますが、それも含めて検討を行っているのか。
- 企画政策課 既存のバス路線と競合することとなると、既存バス路線の廃止も可能性としてはある。先進事例等を確認し、研究を進めながら、最適な取組をできる限り早く進めていきたい。
- 総合企画部長 バスに関することだけではなく、地域で支えあう仕組みづくりが求められており、全庁で検討を行っているところである。市長の地域懇談会でも、常に話題になっている。
- B委員 交通体系と全体都市像の関係をより明確にすべきではないかと思う。
- 総合企画部長 総合計画の中ではお示ししているが、実施計画という具体的なレベルでは、まだ取組を示せていない。
- 企画政策課長 国では、バス以外の公共交通機関も含めた、切れ目のない移動手段の構想を持っているようだが、地方で同様の趣旨で取り組めるかは、今後検討を続けなければならない。
- E委員 現実的に乗車人数が減少し、バス路線が縮小している中、市の目標としてはどう考えているか。
- 企画政策課 まず、利用者数の減少を抑制し、バスの便数等を維持したいと考えている。とはいえ、バス運行会社との協議において、利用者に応じてバスの本数や路線を見直すということまでは、話題になっていない。
- E委員 高速バスの例をとっても、利用者のニーズに合致した体系になっていないように思う。乗車したい人がどう感じているかを把握することも必要ではないか。
- 企画政策課 高速バスの乗降調査は、年に数回実施している。実際に乗車する市民の意見を聞く場も、今年度の後半に設けたいと考えている。
- 企画政策課長 自家用車で高速道路そばのバス停に向かう人が多くなり、柏崎駅発着の利用者が減少していると分析している。自家用車でバス停まで向かうというパークアンドライドが現在のニーズに合っており、そのための環境整備が今後必要な取組であると思われる。
- 総合企画部長 県全体で高速バスの運行についても、検討しているところであり、本市だけではなく県内の自治体全てが危機感を持っている。まず現状維持というところで、市では高齢者割引の範囲を拡大し、実施を行うこととしている。
- B委員 高速バスが衰退して以降、鉄道の運行にも影響が出るなど、柏崎の交通体系が徐々に悪化しているということをもっと気にかけてもらいたい。

《外部評価シートの記入》

《各委員からの評価発表》

- C委員 行政が様々な取組を通して、路線バスの利便性向上や利用促進に向けて努力している姿勢はうかがえるが、路線バス事業そのものがビジネスモデルとして崩壊していると考える。一地方で解決できる課題ではなく、国による抜本的な対策が急がれる。地域の実態を国へ伝え、国家的な課題として、公共交通のことを真剣に考えなければならない。
- D委員 一利用者として、ニーズに合致していないところは感じているが、運行しているバスに乗車すると、人もいない。現状を維持することが事業の最大の目的となるのは仕方ないと思う。  
今後に向け、既存路線や運行ダイヤが市民ニーズに合っているかの調査が必要ではないか。
- B委員 柏崎市における都市交通全体について、市の長期計画を踏まえ、より具体的な計画を策定していただきたい。  
中心市街地と都市サービスゾーンの間には、一定の人口がいると思われる。多少不便であったとしても、駅や病院、市外への移動が可能となるように、その部分の需要にも応えるべきではないか。
- A委員 運転手不足や利用者の減少などの状況で、既存の形でバス事業を維持することは、非現実的であると思う。中心部と郊外を結ぶ部分においては、デマンド型の交通体系を育成するために、予算を思い切って振り向けるべきではないか。  
様々な生活支援の中に移動もあることを考えると、福祉的な視点からもバス事業の維持について検討すべきである。
- E委員 柏崎市民は自家用車で移動する習慣が付いていると感じており、バス路線を維持するためには、青壮年期からバスに乗車する習慣を作るという考えからの取組が必要ではないか。その取組として、高齢者の割引制度を妊産婦や学生などに拡大することも、1つの考えであると思う。  
高速バスは、市としての取組を事業者にアピールし、柏崎路線の維持に努めていただきたい。  
デマンドバスは、既存のバス路線や自家用車との競合を考え、他市の事例も踏まえ、事業の可能性を研究していただきたい。